

2012年3月27日

ボイラー及び排ガス炉の燃料を重油・灯油から都市ガスへ転換  
～主力工場の二酸化炭素排出量を年間約1万トン削減～

三菱樹脂株式会社

三菱樹脂株式会社(本社:東京都中央区 社長:吉田 宏)は、主力工場の一つである山東工場(滋賀県米原市)のボイラーの燃料を重油から都市ガスに転換しました。今後、本年12月を目途に、VOCを燃焼処理する排ガス炉の燃料についても灯油から都市ガスに転換する予定です。これらの燃料転換により、山東工場の二酸化炭素排出量は、年間で約1万トン(2010年度比)削減されます。なお、これらの燃料転換工事に伴う投資額は、約4億円です。

当社は、環境負荷の低減に関する取り組みとして、製造部門での二酸化炭素排出量の削減や省資源化、ゼロエミッション活動などに取り組んでいます。このうち二酸化炭素排出量削減については、2015年度までに国内事業全体で4万トン<sup>※1</sup>を削減する目標を掲げ、高効率空調システムによる省エネルギー化や生産性の向上、新エネルギーの導入などに取り組んでいます。

今般、その活動の一環として、FPD向け光学用ポリエステルフィルムの生産拠点である山東工場において、製造ラインの熱源として使用する蒸気を発生させるボイラーの燃料と、フィルムのコーティングに用いる有機溶剤から発生するVOCを燃焼処理するための排ガス炉の燃料を、それぞれ都市ガスに切り替えます。都市ガスは、重油や灯油よりも発熱量ベースの二酸化炭素排出係数が小さいため、燃料を都市ガスに転換することで二酸化炭素排出量を削減できます。ボイラー燃料の転換工事は今月すでに完了しており、今後、12月までに排ガス炉の燃料転換工事を実施する予定です。これにより、ボイラーで年間約8,000トン、排ガス炉で年間約2,000トン、合計約1万トンの二酸化炭素排出量を削減することが可能です。

なお、当社は、環境省の自主参加型国内排出量取引制度(JVETS)に参画しており、本工事の実施に伴い、補助金の交付を受ける予定です。

当社は、今後も、地球環境負荷の低減に対する積極的な取り組みを進めるとともに、環境配慮型製品の開発・販売を通じて、三菱ケミカルホールディングスグループが提唱する「KAITEKI<sup>※2</sup>」の実現を目指して取り組んでまいります。

※1 特段の対策活動をしない場合の将来予測値(BAUケース)に対する削減目標

※2 人にとっての心地よさに加え、社会にとっての快適、地球にとっての快適を併せ持ったもので、真の持続可能な状態。

同時配布:重工業研究会、化学工業記者会、長浜市政記者クラブ

【写真】

＜山東工場＞



＜改造工事を実施したボイラー＞



＜本件に関する報道関係のお問合せ先＞

三菱樹脂株式会社 総務部 広報室

TEL:03-3279-3800